

令和3年1月13日

広島県教育委員会
教育長 平川 理恵様

呉昭和高等学校PTA会長 正木 健
呉昭和高等学校同窓会会長 曾根 誠治
昭和地区自治会連合会会長 神田 晃典

代表連絡先： 曾根 誠治
電 話： 090-3742-0886



広島県立呉昭和高等学校の存続を求める請願

<請願の趣旨>

広島県立呉昭和高等学校について、2022年春の入学者から募集を停止する方向で検討していると、去る1月8日にマスコミにより報道されました。

そのような一方的な通告により、関係者一同悲嘆するとともに、今後も広島県立呉昭和高等学校の存続を強く請願いたします。

<請願の理由>

広島県立呉昭和高等学校は昭和58年、昭和地区初の高等学校として開校し、生徒数1,000名を超える学校として、昭和地区には無くてはならない高等学校へと成長してまいりました。

しかし、平成に入ってから少子化のあおりを受け、現在では196名にまで減少しましたが、PTA、同窓会をはじめとする学校関係者、地域の皆様の支援のなかで一定の生徒数を維持し、恵まれた教育環境の中で学力、体力、社会性を育み、現在までに6,600名を超える卒業生を輩出し、卒業後は広島県内のみならずグローバルな社会で活躍しております。

一方で、昭和地区の児童生徒数(令和2年度)は小学生1,752名(呉市総数10,125名)、中学生948名(呉市総数4,935名)と呉市内では高水準な地域であり、地元中学から呉昭和高校への入学率も近年では65%以上を確保しています。

また、呉昭和高校の生徒たちは、地域で開催される様々な行事に対して企画・運営段階から参画する事で地元に着目し、昭和地区唯一の高校が地元にとって必要な施設であることは言うまでもありません。

昨年11月に行われた令和3年度入試説明会において、コロナ渦のなか、今年度は地元の中学生を中心に呉市内外から例年を上回る参加者があり、今後の生徒数増加に転じる機会になりうると、関係者一同、学校発展への期待を膨らませていた矢先、あまりにも急で寝耳に水と言わざるをえない報道に、在校生・保護者・同窓生・地域住民は大変なショックを受けております。

再編計画の報道内容を知り、少子化のなか広島県立の高等学校の再編計画を進めざるをえないということには一定の理解はできるものの、地域にも学校関係者にも事前の相談・説明もなく、あまりにも一方的すぎる計画で、憤りを隠せないというのが一同の思いであります。

最後に、昭和地区に無くてならない唯一無二の高等学校が、報道通りに廃校の一途を辿ることのないよう、募集停止について再検討していただき、呉昭和高等学校を存続させていただきますよう、ここにお願いいたします。